

JAからのおたより

私たちは TPP に
日本が参加することに断固反対します



ごとう

GOTO AGRICULTURAL CO-OPERATIVES



3 月号

JA ごとう
2013 No. 85



ごはんぢゃワン©

TOP
NEWS!!



産直市場

五島がうまい・直送便
肉用牛生産振興大会 開催

CONTENTS 目次



- 2p ・ CONTENTS
- ・ 平成24年度 第9回理事会
(平成25年2月1日 開催)
- 3p 太陽と緑 五島がうまいの立役者
- 4p TOP NEWS
- ・ 産直市場 **五島がうまい**・直送便
- ・ 肉用牛生産振興大会
- 6p 今月のスポット
- 8p ・ 青年部の活動
- ・ 女性部の活動
- 9p ・ 食育のページ
- ・ 経済部からのお知らせ
- 10p ・ JA 共済書道コンクールで快挙！
- ・ ご飯をおいしく 食事を楽しく！
- 11p ・ 農作業労力支援事業（人材紹介事業）
のお知らせ
- ・ お天気カレンダー
- 12p ・ 旅行センターからのお知らせ
- ・ 産直市場 **五島がうまい**・
(株)JA ごとう葬祭 浄倫会館
- ・ 編集後記

平成二十四年度

第九回理事会

(平成二十五年二月一日 開催)

1、報告事項

- 報告 No. 1 主な事業経過と行事予定について
- 報告 No. 2 主要事業十二月末計画と実績について
- 報告 No. 3 「産直市場五島がうまい」十二月末実績について
- 報告 No. 4 平成二十五年一学期県内家畜市場市況について
- 報告 No. 5 平成二十四年度第3四半期子会社の営業実績等について
- ①(株)JA ごとう葬祭
- ②(株)JA ごとう食肉センター
- ③(株)JA ファームごとう
- 報告 No. 6 ごとう農業協同組合賃貸牛舎新築工事入札結果について
- 報告 No. 7 販売物の仮渡について
- ①平成二十四年度産ゆで干し大根仮渡について
- ②平成二十四年度産ゆで干し甘藷仮渡について
- ③平成二十四年度産秋南瓜仮渡について
- ④平成二十四年度産大豆仮渡について
- ⑤平成二十四年度産レタス仮渡について
- 報告 No. 8 平成二十四年度産大豆の検査・荷受数量の実績について
- 報告 No. 9 青色申告会の申告巡回日程について

2、議案事項

- 報告 No. 10 空調改修工事見積入札結果について
- ①西部支店空調改修工事見積入札結果について
- ②上五島支店空調改修工事見積入札結果について
- 報告 No. 11 平成二十四年度第3四半期内部監査実施状況について
- 報告 No. 12 平成二十四年度第3四半期コンプライアンス・プログラム実践状況について
- 報告 No. 13 平成二十四年度第3四半期余裕金の運用状況について
- 報告 No. 14 JA ごとうコンプライアンスマニュアルの策定・発行について
- 報告 No. 15 貸付金の実行について
- 報告 No. その他
- 議案 No. 1 三井楽ライスセンター糶摺り機改修工事(台風被害)について【可決】
- 議案 No. 2 久賀出張所台風被害復旧工事について【可決】
- 議案 No. 3 利益相反取引について【可決】
- 議案 No. 4 職制規程の一部変更について(案)【可決】
- 議案 No. 5 退職給与規程の一部改正について(案)【可決】
- 議案 No. 6 第3次中期経営計画骨子(案)について【可決】
- 議案 No. 7 転貸資金の借入について【可決】
- 議案 No. 8 貸付金の審査について【可決】
- 議案 No. その他



太陽と緑
五島がうまい
の
立役者 NO. 34

鬼岳に見守られながら

五島市野々切町

の ぐちさとる

野口 悟さん(76)

のぶ ゆき

信幸さん(46)

ふ き こ

不希子さん(44)

野口さん親子は現在、葉タバコ二五〇㍑を中心に高菜、スナップエンドウなどを栽培しています。

愛知から五島へ

信幸さんは五島で育ち、高校卒業後に愛知県刈谷市の自動車部品の製造会社に就職。二十九歳まで機械部品の製造を行い、会社の社長令嬢だった不希子さんのハートを射止めた五島に戻り葉タバコ農家として就農しました。

昨年は苗の管理がうまくいかなかったとのことで、今年の豊作を願った苗の植え付けに余念がありませんでした。

こだわりのHive

良質な葉タバコや野菜を作るために、土づくりに重点を置いているという信幸さん。たい肥は知り合いの農家さんの牛ふんを中心に、牧草を



混ぜて自前で作っているといいます。今年のたばこ苗に関しては「昨年に比べると良い状態。日照時間も長くて、生育も順調なので、土づくりを基本として苗の管理をうまく行えれば」と話しました。

鬼岳に寄り添って

取材時、苗床を作っていたハウスを一歩出るとそこには雄大な鬼岳の姿が。信幸さんが休憩中によく眺めると、その景色は確かに疲れを吹き飛ばすような眺めでした。

今後は価格変動の様子などを見ながら野菜づくりにも力を入れたいということ、ますます野口さん親子の活躍が期待されます。





産直市場

五島がうまい・直送便

五島がうまい オープン2年目で売上4億円を突破！



↑ 昨年オープンしたおみやげ品工房



↑ いちごを買い求める親子

産直市場「五島がうまい」が、オープンから二年目で年間販売額四億円に達し、初年度を五割上回る勢いです。家庭菜園などで少量栽培する生産者にも売り先ができ、店頭商品の量と種類が増加。農産物の販売額も一億円から二億円に倍増しました。

同直売所は、平成二十三年四月にオープン。特産品の「五島ルビー」を中心とした新鮮な青果物を豊富にそろえ、「五島牛」や「五島豚」の対面販売などで、地域の特色を出しています。二十四年度は、昨年度に比べて農畜産物の販売が好調で、オープンから二年目を迎え、地域密着型の店舗として定着しました。生産者の顔が見える直売所ならではの安全・安心な商品が人気を集めています。

地域住民の買い物場としてだけでなく、今年度からは「五島牛」や椿油など、島外観光客向けの商品をそ

ろえた「おみやげ品工房」を新設。地元バス会社とタイアップした企画で、管内に訪れる観光客を取り込んだ。

同直売所の亀山誠出荷協力会会長は「会員同士が作柄をずらして端境期に出荷することで、長期的に少量ずつ自前の商品を店頭に並べることができる。また、出荷時の店舗スタッフや会員同士での情報交換も有効。品物が売り切れる前に店舗から連絡が入り、消費者の品薄感が解消されたことが売上増の要因の一つではないか」と話しました。

今後の取り組みとしては、出荷体制の強化と品目の充実で、直売部の洗川正明部長は「営農部署と連携を図り、直売所向けの栽培講習会を実施するなど、会員数と品目を充実させたい」と話しています。

(日本農業新聞二月二十日掲載)

平成24年度 肉用牛生産振興大会 開催

— 1 戸 1 頭 増頭運動の実践！ —



↑ 購買者の中山さんと
JA からつ平田さん

当JA二月二十一日、JA畜産事業所にて平成二十四年度JAごとう肉用牛生産振興大会を開きました。JAでは繁殖雌牛五、〇〇〇頭達成へ向けた増頭運動を行っており、現在の経過や今後の取り組みについて報告が行われました。また、今大会では毎月開かれていた「五島肉用牛大学」の特別講義も行われました。

大会には関係機関・生産者・JAなどおよそ二〇〇名が参加。開会の挨拶で当JAの中尾弘一組合長は「平成二十年度三、八〇〇頭だった繁殖雌牛も現在四二〇〇頭まで増頭すること

ができた。購買者の要望が強い、一回のせり市での七〇〇頭出荷を実現させるために五、〇〇〇頭増頭は達成させなければならぬ。五島の畜産関係者が一致団結し、今後も運動を盛り上げよう」と挨拶。

JAでは昨年の和牛能力共進会で好成

績を収めた後も、「五島牛」が地域団体商標として登録を受け、振興を図る絶好のチャンスを迎えています。

さらに、来年度の長崎県予算案に優良雌牛の導入に対

する助成予算が盛り込まれるなど、増頭に向けた

追い風が確実に吹いてい
ます。現在五十七頭を導

入している「安福久」を
中心に高齢牛の更新を進

め、優良繁殖雌牛群の造成と、課題の一つに挙げ

られた技術面・経営面の



↑ ざっくばらんな質疑応答で有意義な大会に

底上げも今後「五島肉用牛大学」の講義を中心に改善が図られることとなります。また、今大会では購置者

との意見交換会も行われ、JAからの平田喜矢さん

と、購買者を代表して佐賀県玄海町の中山敦夫さんが

講演。購買者が求める牛づくりについて、参加者から

の質問に答えました。参加者の一人は「今日は購買者

の生の声を聞くことができた。大変参考になった。繁殖農

家も肥育農家も牛好きなの



は同じなので、その期待に応えられるよう良い牛を今後も生産したい」と感想を述べました。



糖度の増した
貯蔵カボチャ

値決め販売で高単価

—貯蔵カボチャ出荷—

当JAでは昨年収穫し、貯蔵していた二十四年産抑制カボチャの出荷が行われています。貯蔵することで熟成され、甘味が増すというメリットがあり、市場からの評価も高まっています。二十四年産は栽培面積十五畝（前年比三畝増）と拡大しましたが、台風による被害で、平年作の六割となる約七十トの販売を見込んでいます。

抑制カボチャは昨年十一月、十二月に収穫し、カボチャ専用貯蔵庫で温度を十二度に保ち、二カ月間を目安に貯蔵しています。国内産の端境期となる一月下旬～三月上旬に出荷。今年は二月上旬からスタートしました。

国産を求めるニーズを捉え、JA全農がさきと連携した値決め販売で、高単価を実現しています。農産園芸部の松下充部長は「手取りが安定し、生産者の経営へのメリットは大きい。JAの振興作物の一つだ」と述べています。

（日本農業新聞二月二十二日掲載）

ツワブキ振興、生産者増える

—上五島むきつわ出荷—



収穫を行う西村さん

当JAが振興作物として推奨するツワブキの生産者が増え続けています。二十四年産は新たに四戸の生産者が栽培を始め、この二年で十二戸増えた。栽培に手間がかからず、皮むきなどの調整作業も簡単で、高齢の生産者を取り組みやすいことが拡大につながっています。生産戸数は三十戸四十四戸に広がり、今年は昨年を一割上回る三・五トの出荷を計画しています。

生産者の西村タケノさんは「甘藷を栽培していたが、収穫作業がきつくてツワブキに転換した。収穫も楽で、調整作業も座ってできるので体が楽だ」と話しています。

今年の出荷は、例年に比べほぼ一カ月遅れの一月十七日から始まりました。出荷のピークは三月下旬から四月上旬で、福岡市場に上五島産「むきつわ」のブランド名で出荷。四月いっぱい出荷が続く予定です。

（日本農業新聞二月二十一日掲載）



氷詰めの様子

適時適量、高品質

—ブロッコリー氷温出荷—

当JAでは県内屈指の生産量を誇るブロッコリーの出荷が行われています。今年度は輸送用の発泡スチロール箱の改良を行い、一層の鮮度保持に努めています。

味・品質はもちろんのこと、注文に応じた出荷量の調整により取引先の評価も高まっています。高い鮮度保持技術により、収穫後一週間ほど保管が可能で、選果場では一定量をストックしながら「適時適量」の出荷に力を入れています。また、値決め販売を行うことにより、収入の安定化を図っています。

ブロッコリー部会の柳田善夫部会長は「堆肥を入れたり、飼料作物をすき込んだりと、土づくりに力を入れている。五島産ブロッコリーは軸にも甘味があり、氷詰め出荷しているので鮮度も全然違う」と品質に自信を見せています。

（日本農業新聞二月二十日掲載）



豊作を願いながらの播種

2年連続の豊作を願って

—平成25年たばこ播種祭—

当JA大浜育苗施設で一月二十五日、二〇一三年産葉たばこの播種祭を行いました。播種祭には栽培農家、関係機関など約八〇名が出席し、二〇一三年産葉たばこの豊作を祈願しました。

二〇一二年産の管内の葉たばこ生産量は豊作ということもあり約三〇三トと、例年になく良い収量となりました。本年産は約一四五鈴で栽培を行い、三二六トの生産量を計画しています。

葉たばこは種を水に混ぜてじょうろで播種を行います。農家は二〇一三年産の苗が丈夫に育つことを祈りながら播種を行いました。今回種を播いた葉たばこは四日程で発芽し、二月中旬には六、〇七〇枚の苗箱を七〇戸の栽培農家に配布する予定。配布後は各農家が苗を管理し、三月中旬には畑に移植します。

西九州たばこ耕作組合担当者は「昨年は一九戸の生産者が廃作したが、後継者も誕生しており、葉タバコの産地として、今年も昨年のような豊作を期待したい」と述べました。

家畜の魂安らかに

—平成24年度畜魂祭—



開会の挨拶を行う中尾組合長

当JAは二月二十一日、畜産事業所において平成二十四年度畜魂祭を開きました。この式典は管内の基幹作目である畜産業発展のため代償となった家畜の御霊を供養するのが目的。今回の出席者は関係機関、同JAの子会社である(株)JAごとう食肉センター職員などおよそ五十名。今年度同食肉センターでは三月末までに、四七五頭の牛と一三、五〇〇頭の豚のと畜が計画されています。開式にあたり、同JAの中尾弘一組合長は「畜産関係者の生活の糧として、また人間の命を育むため代償となった家畜に弔意を捧げたい。こうした多くの命に報いるために、今後も行政や畜産関係者などが一丸となって、畜産振興に取り組んでいきたい」とあいさつ。

出席者は一人ひとり焼香を行い、一様に哀悼の意を捧げるととも、今後の畜産業振興を誓うひとときとなりました。

快適なSSづくりを目指して

—平成24年度 JA-SS 美化コンテスト—



給油作業をチェックする担当者

当JA管内で一月二十九・三十日の両日、長崎県下JA・SS美化コンテストが行われました。管内一〇ヶ所のJA・SSを審査し、給油作業や身だしなみなど四〇項目に及ぶチェックが行われました。

当JAでは日頃からSSの美観維持に力を入れ、利用者に愛されるSSづくりに努めており、同コンテストはそういったSSのイメージアップを目的とし、年二回実施されています。

昨年オープンした本山給油所でも審査が行われ、計量機や事務所内、トイレなどがチェックされ、担当者からアドバイスを受けました。

全体の審査を終えて同JA担当者「一人一人がお客様の立場に立ったサービスを心掛けることで、地域の皆様に親しまれるSSを目指したい」と述べました。



JA 全国青年大会での授賞式

若手農業者の結束や多様なメンバーによる自己の高めあいという青年部の意義さえも感じる作品となっており、青年部の結束の強さを感じる作品です」

青年部の思い力強く全国に発信

—手づくり看板全国コンクール—

全国農協青年組織協議会（JA全青協）は二月十四・十五日の両日、第五十九回JA全国青年大会を開き、日程の一つとして、平成二十四年度手づくり看板全国コンクルールの表彰式が行われました。

大会は東京の日比谷公会堂を会場に、全国の青年組織からおよそ一、五〇〇名が参加。当JA青年部からは新井真二青年部長が参加し、表彰式に臨みました。

農協観光賞を受賞した「五島の農業は俺達を守る！」という力強いスローガンは審査員の評価も高く、以下のような講評がなされました。

「青年部らしいシンプルなメッセージとデザインが、『地域の農業を支える』という想いを明確に訴える作品となっている点が評価されました。」

後継者めぐりあいの場に

—青年部めぐりあいイベント 初開催—



紳士的な(?)参加者

当JA青年部は二月二日、農業後継者対策の一環として、同青年部では初の試みとなるめぐりあいイベントを五島コンカナ王国で開きました。

青年部員十四名、一般女性十二名が参加し、アピールタイムや地場産いちごが当たるビンゴ大会などで交流を深めました。

今回は初対面ということもあり、最初は緊張気味だった参加者も時間が進むにつれ、積極的に男性陣が話しかけるなど、大いに盛り上がりました。イベントに参加した女性は「普段あまり接する機会のない農業関係の方と話せたので良かった。今後もイベントがあれば参加したい」と好感触。

イベントを企画したJA担当職員は「初の試みということで、うまくいくか不安だったが、連絡先を交換する光景も見られたので良かった」と話しました。

今後、同青年部では今回の参加者を中心に、農作業体験や地場産野菜を使つての料理体験を行う計画です。



終始笑顔で大盛況のミニデイサービス

（日本農業新聞 二月二十六日掲載）

回好評を頂いており、我々スタッフも元気を頂いているので、今後も継続して行っていきたい」と話しました。

健やかな老いを応援！

—大津地区ミニデイサービス—

当JA助け合い組織はまゆう部会は二月二十日、下大津住民センターにおいて、ミニデイサービスを開きました。同サービスは部会が定期的に管内各地区で開いているもので、年金友の会会員を中心に健康的に楽しい時間を過ごしてもらうことを目的としています。

今回の参加者はおよそ七十名で、受付で血圧測定を行った後、両手を使つての頭の体操や使用済みはがきを用いた鍋敷きづくり、カラオケなどのレクリエーションを楽しみました。

特に毎回好評の頭の体操では部会員の軽快な説明もあり、終始笑い声が会場に響きました。

また、同サービスでは毎回介護保険についての説明も行っており、イラスト付きの文書を用いて、要介護認定の申請について分かりやすく解説を行っています。

経済部の泉井和博部長は「総合事業を行うJAが担う責任の一つとしてなくてはならないイベント。毎回好評を頂いており、我々スタッフも元気を頂いているので、今後も継続して行っていきたい」と話しました。



五島市松山町の市立福江中学校は、国語の時間に「地産地消」を題材にした調べ学習を取り入れています。身近な食べ物について生徒が思い思いに調べてまとめ、発表し合いました。資料や話題の提供では、JAごとくや給食センターが協力。先生から生徒への「一方通行」になりがちな「食育」だが、生徒が主役になって地域とともに、食を考える試みが始まっています。

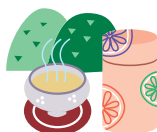
調べ学習に取り組むのは、同校の一年生で、国語の教材「コンビニ弁当十六万キロの旅」を読んだのをきっかけに、生徒一人ひとりが五島の地産地消について、インターネットやパンフレットなどを利用して調査を始めた。

テーマは「地産地消の良さ」と欠点と課題「五島のブランド米」「五島の水産業」など、生徒によってさまざま。「地産地消は作り手の顔が見えて安心だが、こだわりすぎると他の地域のが食べられなくなる」「(おいしいキビナゴなどを育む)海を汚さないようにすることが大切だ」「『五島ルビー』は評価が高い」など、生徒からは、身近な食をめぐるさまざまな気づきや課題が次々と飛び出しました。

数学の課題のように、あらかじめ答えや結論が用意されていない調べ学習。国語担当の出口陽子教諭は「生徒が自分で調べ、考えを加えることが大事。初めての試みだったが、身近な食をめぐる地産地消がよい学びの素材になった」と話しました。

(日本農業新聞二月二十一日掲載)

甦命茶煮出し用ティーバッグ



3.2g×80包入
4,200円(税込)



3.2g×30包入
2,100円(税込)

従来のバラのタイプを粗めに砕いてティーバッグにしました。より一層香ばしくおいしくなりました。



甦命茶バラ お徳用
260g 入
4,200円 (税込)



甦命茶バラ
100g入
2,100円 (税込)

香ばしくて美味しい茶葉の
タイプです。
麦茶同様に5～6分沸騰さ
せて下さい。



マイルド甦命茶
200g入
2,100円 (税込)



マイルド甦命茶
ティーバッグ 3.2g×30包入
1,050円 (税込)

野草は苦手と言われる方の為に飲みやすくしています。発芽ハトムギの割合が多くマイルド。味と香りはNo.1普通
のハトムギより養分溶出量は3倍!!

経済部より

駐△命茶

■原料は全て国内産です。 ■農薬や防腐剤・着色料等は一切使用していません。

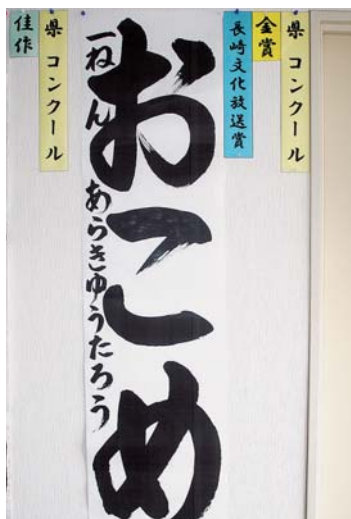
第56回（平成24年度） JA 共済全国小・中学生書道コンクール

条幅の部 全国農業協同組合中央会会長賞 受賞

五島市立福江小学校 1年 荒木 佑大朗くん



↑ 賞状を手に笑顔の荒木くん



↑ 力強く書かれた作品「おこめ」

第五十六回（平成二十四年度）JA共済全国小・中学生書道コンクールにおいて、五島市立福江小学校一年の荒木佑大朗君が条幅の部で全国農業協同組合中央会会長賞を受賞しました。このコンクールには毎年数多くの作品が出品され、今年度は百四十七万七千点の応募がありました。

荒木君が書いた作品は「おこめ」。力強い筆づかいで元気の良さが表れています。受賞に関しては「お母さんが喜んでくれたのが嬉しかったです。また次回も挑戦したい」とコメント。

当JAでは今年も「書道コンクール」を開催します。皆様のご応募をお待ちしております。



ご飯をおいしく 食事を楽しく！

料理研究科 黛 かおる

鶏肉のみそ焼き丼

1人分約732kcal

肉の癖は消えふっくらと



みそ漬けは冷蔵庫がなかった時代の保存の知恵。今流行の塩麹（こうじ）と同じような効果がみそ床にあり、ジューシーにふっくらと仕上がります。みそ床は同じものを漬けるなら2～3回繰り返し使えます。豚肉・魚などでも応用できます。

材 料 （4人分）

温かいご飯 ……………800g
青葉（ダイコン、カブ、小松菜、セロリなどの葉） ……………約100g
塩……………小さじ2 / 3
鶏もも肉 ……………2枚（500g）
ネギ……………1～2本

みそ床

みそ ……………150g
砂糖……………大さじ3
みりん……………大さじ3
酒……………大さじ3
しょうが汁……………小さじ1
七味唐辛子……………少々

作り方

- (1)鶏肉は厚い部分に数カ所、切り込みを入れる。
- (2)みそ床の材料を順に混ぜ合わせる。容器に半量を広げる。鶏肉を並べ、残りのみそを肉が隠れるように、載せる。冷蔵庫に半日から1晩置く。
- (3)ネギは4～5cm長さに切る。青葉はたっぷりの熱湯で色よくゆでる。水に取り

水気を絞り、細かく刻む。

- (4)グリルでネギを焼き色が付くまで焼いて取り出す。次に鶏肉の表面のみそを取り、片面、約5分ずつ焼いて、中まで火を通す。1.5cm幅にそぎ切りにする。
- (5)食べる直前にご飯に青葉と塩を混ぜる。器に盛り、鶏肉とネギを載せる。好みで、七味唐辛子を振る。

農作業労力支援事業 (人材紹介事業) を展開しています

平成24年11月1日からJA ごとうが、農業経営規模拡大・高齢化等に伴う労力不足を補うため、要望する時期に支援者（有償）の紹介を行う「JA ごとう職業紹介所」を開設しました。

こんなときに
「支援事業」を活用下さい。

- 作付面積を拡大したいけれど、人手が足りない。
- 野菜など収穫時に、人手が足りない。
- 病気・けがをして、人手が足りない。

具体的な作業内容

- 野菜の定植・管理・収穫作業
- たばこの定植・芽かき・収穫作業
- 牛舎の清掃・給餌・牧草収穫手伝い作業

など

事業の流れ

- ①雇用者は、登録を必要とします。
- ②JA は、雇用者から雇用要望時期等を受けます。
- ③JA は、無償で支援者の紹介を行います。

就業時間・労働費

- ①作業時間 8 時間（8：00～17：00）
※1日の最低労働時間・・・4時間以上
- ②労働費（賃金）～目安～
※時給700円～850円
（雇用者と支援者の契約協議で決定されます。）

平成25年度のスケジュール

2～3月に雇用希望者・支援希望者の募集を行い、3月中旬頃説明会を開催し、4月からの支援稼働を図ります。

お問い合わせは…JA ごとう 職業紹介所

許可番号 42-ユ-300073

農産園芸部 TEL：0959-72-6214（担当：鬼塚・小島）



春に鳴る雷のことを春雷といいます。なかでも、二十四節気の啓蟄（けいちつ。今年は三月五日）の頃に鳴る雷を「虫だしの雷」と呼びます。雷の音で目を覚ました虫たちが穴からはい出してくる、そんな季節です。

春になって大地がだんだん暖められます。そこへ上空に冬のような寒気が入ると、地上と上空の温度差で雲が発達し、雷が発生しやすくなります。昔の句に多く読まれていた春の雷は、空で光つても地上に降りてこない、あるいは、一つ鳴った後、もう遠のいてしまふなど、多くは優しい表現でした。夏の激しい雷とは違っていろいろです。

ただ、昔と比べて、近年は春でも夏のような激しい雷が鳴ることも少なくないと思います。雷で虫が目を覚まし、穴からはい出してくるなら風情がありますが、怖くて穴から出られないような雷では、季節感も失われてしまいますね。

春の雷

一般財団法人日本気象協会 ● 檜山靖洋



お天気カレンダー



洋上の楽園

ぱしふいっく びいなすで航く

[博多港発]

紺碧の日本海クルーズ 朱鷺の舞う島佐渡と 歴史と伝統の街・金沢5日間



忘れられない洋上の別世界
佐渡・金沢へ



平成25年7月21日(日)~7月25日(木)



旅行センター
からのお知らせ



お問い合わせは…
JAごとう旅行センター
0959
(72) 6211 まで

早いもので、私も熊本から五島に移り住んで二年が経ちました。広報を担当し始めてからも一年が経過し、改めて月日が流れたことを実感しています。

今月号にも掲載していま

すが、肉用牛生産振興大会の意見交換会で購買者の中山さんが「五島に牛を買いに来る理由は牛が良いことはもちろん、まず(五島の)人間が温かい」とおっ

しゃっていました。

私も最近特に感じる点ですが、先月は日本農業新聞でJAごとうの特集が行われたこともあり、いつも以上に取材先での人の温かさを感じました。お忙しい中、長時間取材にお付き合頂いた皆さんに改めてお礼申し上げます。

(紙漣 諒)

編集後記



産直市場

五島がうまい

住所：〒853-0041 五島市籠淵町2450-1
電話：0959-88-9933 FAX：0959-88-9922

営業時間：9時～19時

※農家レストランは11時～14時（予約については別途）
15時～19時（軽食）

※土日・祝日限定バイキング 11時～15時、17時～19時

料金 大人：1,000円 子ども：500円（小学生以下）

定休日：毎月第1・第3月曜日（祝日の場合は営業、振替なし）

華儀のことなら誠意と真心で奉仕する



株式会社JAごとう華祭

斎場 浄倫会館

【本店】

〒853-0041 長崎県五島市籠淵町2450

TEL 0959(72)8211 FAX 0959(74)5266

【上五島支店】

〒857-4404 長崎県南松浦郡新上五島町青方郷355-7

TEL 0959(52)2417 FAX 0959(43)1955



JAごとう農業協同組合

●JAごとうNo.85 ●発行／ごとう農業協同組合 編集／総務部総務課 〒853-0041 五島市籠淵町2450番地1 ☎0959-72-6211

●http://www.ja-goto.or.jp ●印刷／(株)昭和堂